

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表										
法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	斎藤 妙子	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図りつつ、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いのサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、地域での暮らしを支えます。					
事業所名	小規模多機能 杜の宮	管理者	中堀 詔子							
出席者	市町村職員	加見を行なうもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	2人	人	6人
項目	前回の改善計画		前回の改善計画に対する取組み・結果		意見		今回の改善計画			
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録や伝達簿の内容がまだ解りにくい場面があるので、勉強会などに取り入れて統一できるようにしていく。 業務改善をこまめにしていき、簡素化できることがあれば検討していく。 新人職員への指導も含め職員の質の向上に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護記録記入。勉強会はコロナ禍で1回しか実施することができなかったため、今後も引き続き勉強会を実施していく。 業務改善は、職員間でアンケートなどを実施しながら見直すことができた。 虐待などがなく、職員に振り返りをしてもらうためのアンケートを実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> 伝達簿や申し送り簿の簡素化（記載項目など）を検討したらどうか？ SWHを各自が意識しながらメモ用紙を作成し、業務中どこでも記録できるようにしてはどうか？ 介護記録の勉強会は継続していった方がよいと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 伝達簿、申し送り簿への記入漏れがないよう、同一様式のメモを作成する。 各自が自覚を持ち、しっかりとした視点を持った介護記録が書けるよう勉強会等で学んでいく。 			
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板や事業所のホームページ更新など毎月は難しいかもしれないが、プライバシーへの配慮もしつつできる範囲でこまめに実施していきたい。 コロナ禍による行動制限にあっても快適な日常が過ごせるよう、庭を含め環境整備を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 回覧板や事業所のホームページ更新など毎月はできていないが、パンフレットの見直しを行い、見やすくすることができた。 快適な環境整備として生い茂った庭木の伐採を行う事ができ、景観が良くなった。 		<ul style="list-style-type: none"> 余裕のある職員配置が難しいのであれば、利用者の制限を考えることも必要かと思う。 コロナ禍で思うようなミーティングが出来ていないようなので、アンケートをとったりして改善に向けて取り組んだらどうか？ 「あまりできていない」職員は頑張って全員が「なんとかなる」以上になって頂きたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を有効活用できるように、職員に事前にアンケートをとったり、聞き取りなどを行いながら業務改善に繋げていく。 			
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板や事業所のホームページ更新など毎月難しいかもしれないが、プライバシーへの配慮もしつつできる範囲でこまめに実施していきたい。 コロナウイルス感染が落ち着き、自治会の行事等が始めれば積極的に行事参加をしていきたい。また、地域の子供たちとの交流も再開していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの改善を行い、見やすく案内をすることができた。 コロナ禍で自治会の行事がなく参加することができなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> コロナの規制が緩和されるのを待ちましよう。 今年度の自治会の福祉活動が充分行えず、参加機会がなかったが、次年度は活発な福祉活動が見込まれる予定ですのでご協力お願いします。 かかし祭りなど利用できることはしているのでよいかと思う。 コロナ禍であっても自治会との情報交換は必要と思います。 		<ul style="list-style-type: none"> コロナの規制が緩和され、自治会の活動があれば積極的に参加していく。 広報誌などを作成し、地域の方遠に事業所の活動を知ってもらえるよう工夫をしていく。 			
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 特に家族などが遠方の方達には、杜の宮通信を通じてイベントや日常生活のことが解るように情報を発信していく。 毎月、ケアマネから、日常的な状態確認などをこまめに報告をしていく。 コロナ禍の状態が落ち着けば外出行事も増やしていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者のご家族には、毎月「杜の宮通信」を通じてイベントなどの情報を発信し、日常的なことはケアマネを通じてこまめに報告を行っている。 コロナ禍で外出行事は行う事ができなかったが、紅葉狩りを実施することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> 家族との交流もすっかりできているので、今後も継続してほしい。 コロナ禍で直接の面会は難しいかと思っておりますので、工夫をして欲しい。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者のご家族には、引き続き「杜の宮通信」を通じてイベントなどの情報を発信していく。 面会等の希望があれば、窓越し面会などを行っていく。 			
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議で出された意見などは職員全員で話し合い、意見を反映していきたい。 外部研修へ積極的参加できるようにしていく。 職員のストレス面にも配慮し意見交換がしやすい環境作りに努めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議で出された意見などは伝達簿などで職員全員が周知できるようにしている。 外部研修（介護実践者研修、認知症実践者研修）に参加する事ができた。 職員の意見交換ができるような職員会議のあり方を改善することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> 管理者による個人面談を行えば、振り返りの実効性があるのではないかと思う。 何気ない言葉や態度が利用者や家族に不快感を与えることもあるので、スピーチロック等を防ぐ方法についての研修は継続して欲しい。 ウェブ研修にも積極的に参加し質の高いケアを目指してください。 		<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議等で出された意見などは伝達簿などで職員全員が周知できるようにしていく。 管理者による個人面談を行い、振り返りができるようにしていく。 スピーチロック等を防ぐ方法として虐待防止委員会が中心となりアンケートを実施し、各自が振り返りができるようにしていく。 			
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練には引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなりうる自覚を持てるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練へは、自治会長・民生委員・福祉委員の方たちの参加があったが、地域の方達との協力体制のもとでの実施することができなかったため、今後も引き続き協力体制の構築に努めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練には引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなりうる自覚を持てるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練には引き続き近隣の方や自治会の方への参加をお願いしていく。 災害時などの相互の協力体制が構築できるようにしていく。状況に応じては杜の宮が地域の避難場所にもなりうる自覚を持てるようにしていく。 			